

2006年度 森村・川村ゼミ議事録

5月10日分

記入者：田中茂裕

司会者：豊島典明

発表者：元島、池戸、佐藤

本日のゼミ報告

1.FD 推進センターから公開ゼミのお知らせ

→5月20日に返答しなければならないので、来週のゼミにてゼミ生による希望を返答

2.ドメイン更新のお知らせ

→ゼミ費から3000円の支払い

3.夏期ゼミ合宿について

→来週特に考案予定（場所による様々な弊害の有無を調査したのち検討）

議論の展開

-アヴァンギャルドについて何が変わり何が変わっていないのか-

(元島)

ポストモダニズムになり、モダニズムの時代における創造的破壊によるアヴァンギャルドは永遠性を求めているのではないか。それが無い状態でどのようなことがアヴァンギャルドとして成り立たせているのであろう。何をもって前衛か、また後衛というものはあったのであろうか。

(森村先生)

モダニズム的前衛は、何かを産み出すことが前衛。Recreate とモダニズム的 Recreate は、目的の有無やユートピアへの探求心、既成概念への破壊思想の存在有無により異なる。現代アヴァンギャルドがイメージさせるものとは？

(田中)

TOKION でアヴァンギャルド特集があった。北野武、Yoko Ono,など。またノイズ音楽も特集されていた。例えばノイズ音楽はモダニズム的アヴァンギャルドだと思う。

(池戸・豊島・小川)

そこには、何か見出されているのであろうか。ただの破壊であれば、ポストモダニズム的ではなからうか。モダニズム的ということは社会に向かっていくものがあると思う。

(桑原)

新しいことを始めたときに、以前のことが消えていったらそれは新しいこと＝前衛的、だと言えるであろうか。

Ex) メガネとコンタクトレンズの台頭

(元島)

社会への意識があつてこそモダニズム的であり、結果的にユートピアに繋がるものがモダニズム的前衛ではないか。

記入者の考察

今回、プレゼンター班のテーマであった「modernity & modernism」を考えたときに、アヴァンギャルド、前衛的思想などが大きく時代を動かしているものなのではないかと考える。そしてその背景として、様々な言及や批判が起こり同時期に芸術についての思想が混沌化していたと思われる。しかし、そこには思想や哲学が含まれており、ポストモダニズムとして言われている時代には無いモノが存在していた。そのような背景によって、私たちのような市民は、より影響を浴びていたのだと思われる。今私たちはポストモダニズムの時代にいるのであろうか、モダニズムの時代にいるのであろうか。それとも？様々な解釈が行われている現代でこそ、モダニズムと言われていた時代をよく学び、今回アヴァンギャルド、前衛芸術を検討したように、様々な一例を考察し、現代、今後の時代の社会を考えるべきであろう。(田中茂裕)